

おはようございます。今日も「他者と向き合う」シリーズです。

他者とは対象、他人、神をも含んだ広い概念です。こうした他者に人間は自分から「向き合う」ことができません。「分かった気」にしかねないからです。ですが「分かった気」にしかねない、「向き合う」ことができないからこそ、「分かった気」が破れ、「向き合う」ということが起こります。「向き合う」ということは根本的には「気づき」や「目覚め」の事柄です。自分の力ではどうにもならないものです。

プラトンにイデア論というのがありますね。例えば「円のイデア」とは「円そのもの」のことです。私達は完全な円、しかも一定の大きさを持たない円、そんなものは見ることも書くことも出来ませんが、知っています。理科の「自然そのもの」も、音楽や美術の「美そのもの」もそうしたものです。私達の「分かったつもり」が破れたところで「自然そのもの」や「美そのもの」に触れるということが起こる。それが「学び」につながります。

それでは「人間のイデア」はどうでしょう。私達の「人間」の「分かったつもり」が破れて「人間そのもの」に触れるという瞬間はあるのでしょうか。あるとすればその時こそ「他者」に「向き合う」時であり、ひいては「自己」に「向き合う」時でもあるはずです。

今日はここまでです。本日もよろしくお願いいたします。